

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスももたらう				公表日	7年 3月5日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		バリアフリーではない。意図的に障害物を配置して、日々の安全確認の支援方法の一端としている。	安全確認、危険察知、注意喚起の指導のもと障害物配置の場所を安全配慮の観点で、適宜検討の機会を設けていくこととする。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		清潔、不潔の観念についての説明及び、整理整頓等の指導を行い、感染対策も踏まえ、心地よい空間としている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		7	業務改善については、その都度、協議していくスタイルとしている。	達成率と効率を考えるための指標づくりにPDCAサイクルシートを考案していきたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		7	年2回の面談時、保護者の意向を伺う機会がある。そのほか、自宅送迎の時などに、会話することで意見があれば協議に繋げている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		7	未実施。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		職員全体が周知の上、実行できる（している）ものとして今後も見直ししながら進めるものとする。※HP上に公表		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		7	年2回の面談時、困り感など、問題提起して貰い、双方で協議して計画を作成している。当方の説明と問題提起の場合も多い。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		7	フォーマルアセスメントの実施が出来る専門員がいない、日々の行動観察等で、適応行動の状況を把握している。	評価する場合は、評価者の主観が入らないように視点を変えたり等、蜜に話し合うようにする。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		いずれ、社会にでるという目標を掲げて支援をしている。地域での育ちの推奨や、こどもの成長や特性に合わせて支援を進めている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		週間プログラムは日課の確認の意味で固定しているが、内容は変えている。		

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		支援の終了後に必ずの打ち合わせは出来ないがそれぞれのケース記録時に当日のこどもの状態を振り返り、以降の支援に繋げている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7		買い物体験、図書館、新年神社詣で等、幅広く季節、行事を意識した活動の取り入れ他、職員、こども合同会議を持ち共有している。	全体の会議を開くことで個々が意見を言い、こどもたち同士で相乗効果があり、真摯に取り組めるようになっている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定を育てるための支援を行っているか。	7		自分で選択、決定できるように促す声掛けをしている。出来た時の賞賛を大切にしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		地域Drの研修の取り入れ、学校、障害福祉課等、連携を繋げられるようにしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		学校サイドからの自発的な情報提供は、担任によるが、相談支援を入れての連絡調整などは良好な関係である。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		保育所や児童発達支援事業所での情報は相談支援員を介している。	必要に応じて情報の提供を依頼していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7		相談支援を介して伝えられている。	求めに応じて常に情報の提供の準備はある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7		時間等が合えば、研修に参加させて貰っている。	スーパーバイズの助言、研修の案内を受けるようにしていく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7			
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7			
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		連絡帳でのやりとりではあるが、状況をつたえられるようにしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		家族限定の研修は行っていないが、外部講師の研修に広く参加を呼び掛けている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を十分に踏まえているかはわからない（相談支援員作成）	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		面談を行い、説明を行い同意を得ている。	保護者サイドから支援計画に意見を堂々と言えるような関係になり、信頼を得られるように励みたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		相談を受けたら、直ちに対応するようにしている。案件により学校、担任と会議を持つ等支援している。	

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		今後、必要性が出てくれば、検討していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	適切に対応する準備は常にある。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	当月の戸外活動は月初めに配布している。	不定期に通信を発行している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	十分に留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	意思の疎通、情報の伝達のための配慮なくして成り立たないと考える。常に努力の重要項目と捉えている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		事業所としてイベントを開催することになれば地域住民に案内文書を配布していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	職員、こどもたちとは、毎月、真剣に訓練に取り組んで精度を上げている。	策定している各マニュアルを今年度中に保護者に周知して頂けるよう計画している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		同上
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	予防接種については関与していない。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	該当児童がいない。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	安全面に関しては最優先で取り組みしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		今年度中に取組内容を保護者に周知して頂けるよう計画している。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	職員間でひやりを共有し合い、防止策を講じている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	研修を深めている。	虐待に関する世間のニュースについては会議を持ち、話題にしている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	該当児童がいない。		